

会議名	令和2年度第2回板橋区地域自立支援協議会
開催日時	令和2年10月2日（金） 10：00 ～ 12：00
開催場所	板橋区役所北館9階 大会議室B
出席者	<p>[委員 14名]（敬称略）</p> <p>（会長）、石川副会長、會田委員、長瀬委員、片山委員、小谷野委員、佐々木委員、棟方委員、山口委員、清水委員、鈴木委員、野原委員、西端委員、河西委員</p> <p>（欠席1名）</p> <p>【オブザーバー 4名】</p> <p>飯嶋おとしより保健福祉センター所長、村山志村福祉事務所長、河野障がいサービス課長</p> <p>【事務局 6名】</p> <p>榎木福祉部長、小島障がい政策課長、管理係1名、自立支援係4名</p>
会議の公開	公開（傍聴できる）
傍聴者数	4名
次 第	<p>令和2年度 第2回板橋区地域自立支援協議会</p> <p>1 開会</p> <p>(1)会長挨拶</p> <p>2 定例部会報告（令和2年度第1回）</p> <p>①障がい当事者</p> <p>②権利擁護部会</p> <p>③就労支援部会</p> <p>④障がい児部会</p> <p>⑤相談支援部会</p> <p>3 報告事項</p> <p>（1）精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムについて</p> <p>（2）日中サービス支援型共同生活援助の創設について</p> <p>4 協議事項</p> <p>（1）板橋区障がい福祉計画等の素案について</p>

	<p>(2) 地域生活支援拠点等の整備について</p> <p>5 閉会</p> <p>(1) 副会長挨拶</p>
配布資料	<p>部会報告資料（令和2年度第1回）</p> <p>① 障がい当事者部会報告書</p> <p>② 権利擁護部会報告書</p> <p>③ 就労支援部会報告書</p> <p>④ 障がい児部会報告書</p> <p>⑤ 相談支援部会報告書</p> <p>資料1 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築にかかる協議の場の設置について</p> <p>資料2 日中サービス支援型共同生活援助の創設について</p> <p>資料3 板橋区障がい者計画及び障がい福祉計画（第6期）・障がい児福祉計画（第2期）の素案について</p> <p>資料4 地域生活支援拠点の整備について</p> <p>参考資料 座席表・名簿</p> <p>区内福祉関連事業所の一覧</p> <p>計画に関するアンケート調査の報告書の概要版</p> <p>計画の事業の進捗状況</p>
審議状況	<p>1 開会</p> <p>(1) 会長挨拶</p> <p>(会長)</p> <p>本日は、前回に引き続きまして、障がい福祉計画等の協議に時間を要すると思われますので、ぜひ円滑な進行にご協力をお願いします。</p> <p>2 定例部会報告（令和2年度第1回）</p> <p>(会長)</p> <p>令和2年度第1回障がい当事者部会、権利擁護部会、就労支援部会、障がい児部会、相談支援部会の報告については、部会報告書の記載のとおりで</p>

	<p>す。それぞれ部会長から、報告内容に関して補足などがございましたら、お願いします。まず、障がい当事者部会長よりお願いします。</p> <p>(委員)</p> <p>こちらのとおりです。</p> <p>(会長)</p> <p>続きまして、権利擁護部会長は本日欠席となります。事務局のほうから、特に補足についてはない旨というものを確認させていただいております。</p> <p>続いて、就労支援部会長、お願いいたします。</p> <p>(委員)</p> <p>新型コロナによる影響というものが昨今まだ継続しているところがあり、この就労部会は所管の方とか、事業者の代表の方とか学校関係など、いろいろな方がそのそれぞれの分野において、非常にまだ影響が出ているという状態は継続している状況です。</p> <p>(会長)</p> <p>続きまして、障がい児部会長、お願いいたします。</p> <p>(委員)</p> <p>こちらの資料のとおりです。やはり同じようにコロナの状況の中だと、お子さん自体も弱者であり、そして障がいをお持ちのお子さん、そしてご家族の負担というのはとても大きい。それらの方々を地域全体で理解していけるような体制が、この会を通してしっかりできてくるといいなと思います。細かいことはどこでもあり得ることだと思うので、この機会に構築できたらと思っています。</p> <p>(会長)</p> <p>続きまして相談支援部会長、お願いいたします。</p> <p>(委員)</p> <p>こちらの資料はよくまとまっております。今日の次第に記載されている課題4の地域生活支援拠点等の整備促進のところ、いろいろな意見が上がっておりまして、今後このあたりを板橋区のほうでどう詰めていくかというところが、今後の課題だと思います。</p> <p>(会長)</p>
--	--

以上で部会の報告は終了となります。報告事項ですが、特段質問がなければ次の議題に移っていきたいと思います。委員の皆様から何かご質問、ご意見等がありますでしょうか。

(委員)

高次脳機能障がい部会ですが、年間で3回行っています。5月に予定していたものが新型コロナウイルスでできなかったのもので、来週連絡会が予定されています。この間に障がいを持った方のデジタル支援というのが非常に重要だと感じました。以上です。

(会長)

そのほか、いかがでしょうか。

(委員)

各部会でいろいろ課題が上がっているかと思います。私が出した課題については、文書にまとめて、皆様のお手元にも届いているかと思います。そちらのほうをご覧になって、ぜひそれに対する意見などをいただきたいと思います。特に、当事者部会の議題にあがった障がい者のコロナ禍における対応や、こうしたらいいということは直近の課題になりますので、それに対しての意見はいただきたいと思っています。

(会長)

本日は議題がたくさんあります。ご提案いただいたコロナ禍の中で、障がいのある方たちをどうサポートしていくか、様々な部分に関連する内容だと思います。また次の会、あるいは別の会あたりで積極的にいろんな委員の皆様からのご意見を出す機会が持てればと思っています。それでは、次の議題に移ってまいりたいと思います。

3 報告事項

(1) 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムについて

(2) 日中サービス支援型共同生活援助の創設について

(事務局から、資料1、資料2について説明)

(会長)

それでは、2つ報告事項について、委員の皆様からご意見、ご質問等がございましたらお願いいたします。

(委員)

まず、地域包括ケアシステムの構築にかかる協議の場についてご質問させていただきます。こちらのイメージ案を見ると、新しく協議の場を設置するのではなく、既存の相談部会の、下という位置付けで役割を設けるという形にするつもりですか。

(事務局)

現状の連絡会といった中で、包括ケアシステムといったところを検討するに当たって、医療機関等の方々がございますので、まずはこの既存の場を活用させていただいて、その進捗状況で拡充等を含め、進めさせていただきたいと考えているところです。

(委員)

ぜひともやっていただきたいことは、協議の場としたからには、本会との連絡共有という機能を持たせてもらいたい。具体的に言うと、この協議の場に、できれば自立支援協議会本会の委員が参加できるようにしていただきたい。

(事務局)

一定、ここで連携するといったところで、イメージ案のほうにもございます。ただ、相談支援部会といったところに関しては、こちらは密に連携を取っているという中で、またその内容を本会のほうにもご報告を含めて考えているところでございます。提案の内容につきましては、そういったやり方といったところもあろうかと考えてございますので、今後の検討内容とさせていただきたいというふうに考えてございます。

(委員)

協議の場に、当事者もしくは当事者家族という立場の人も入れていただきたいと思います。当事者であれば、この本会に当事者という委員がいた場合、その方に、この協議の場に参加していただくこともできる。そういう意味で、本会の委員が参加できるようにと思います。

(事務局)

やはり当事者の方々のご意見を踏まえる必要があろうというご趣旨のお話だったかと思います。協議会委員の方に限らず、当事者の方々の意見を集

	<p>約できる方法を含めて検討してまいりたいと考えてございます。</p> <p>(委員)</p> <p>最後に、当協議の場というのは、自殺対策地域協議会とも協議をすると書かれています、具体的にどのような形で協議をする予定なのか、お聞きしたいと思います。</p> <p>(事務局)</p> <p>この自殺対策地域協議会は予防対策課所管の会議体でございます。こちらのほうは、区のほうにおきましても自殺対策の計画で取組を進めているところでございます。それぞれの課題といったところを共有する中で、よりよい包括ケアシステムの支援体制の構築整備ができていくと思ってございますので、我々障がい政策課だけではなく、健康生きがい部とも一体となって、これからも連携をして進めてまいりたいという観点から、このような形で記載をさせていただいているところでございます。</p> <p>(委員)</p> <p>私が知る限りで、自殺対策地域協議会は年に1回の開催です。この協議の場との開催ペースがあまりにも違っているので、情報課題の共有といっても難しそうだなと感じました。そのあたりは情報課題共有をしっかりとできるようお願いします。</p> <p>(会長)</p> <p>ほかはいかがでしょうか。どの都道府県というか、医療施設のほうも、多分これからつくっていかうということだと思いますので、体制的なものと、やっぱりここに書いてある事例みたいなものがいろいろ上がってきて、それから形になっていくという形で進んでいくと思います。特段、その協議の場というところはすごく大事だと思いますので、当事者ないしはご家族の参加も含めて、可能な範囲でそういう意見等も、委員の意見等も反映させて進めていただければというふうに思います。それと、もう一つの日中サービス支援型共同生活援助の創設についても、もしご意見等がありましたら、いかがでしょうか。</p> <p>(委員)</p> <p>資料2、3枚目のところに対象者・定員というところで知的障がい者14</p>
--	---

名と書いてあるが、やはり、重度のグループホームが本当に足りていない。なので、特に行動障がいのある人は、日本全国の入所施設を探しても入れない状況で、短期入所とか入院とか、転々としながら、待っている状態です。なので、ぜひこの板橋キャンパスには、行動障がいのある知的障がいのある人を受け入れてくれるようお願いをしていただきたい。短期入所のほうも、区内には行動障がいのある人が入れる短期入所がなく、他区に頼っている状態、もしくは他区で探せない場合は他県で行っている状態なので、ここにも枠を設けていただけると助かるなと思いますので、ぜひお願いしていただきたいと思います。

(会長)

関連した内容で、もしよろしければ何かございますか。

(委員)

板橋キャンパスという土地は区に住んでいる方が誰でもアクセスがしやすい、板橋区の中では一等地です。東上線の大山駅に近く、地下鉄の三田線の板橋区役所から、駅からも近い。大体の区民の方が、そんなに大変な労力を要せずアクセスできるところ、すごく地の利のいい場所です。せっかくいい場所なのに、そこにグループホームを設けるというのは少々もったいないという印象を持ってしまいが、ここにグループホームをつくるという、何かどうしても必要な理由というのはあるのでしょうか。

(事務局)

この板橋キャンパスで整備する障がい福祉施設におきましては、具体的にどのような障がいをお持ちの方を受け入れていくのかという細部につきまして、東京都と運営法人と協議を行ってまいりますので、様々なご意見、ご要望をお伝えする中で、検討してまいりたいと思っております。こちらのキャンパスにこういったサービスを組み込むかということは、様々なご意見があったところでございます。区といたしましては、区内でやはりなかなか整備が進んでいないサービスというものを踏まえまして、グループホームでありますとか、また短期入所というサービスなどを組み込ませていただいたというところでございます。かなり地の利のいい場所ということで、私どもでいただけるスペースにも若干限りがある中で、どうしても

サービスもある程度集約せざるを得ないというところもある中で、現状のような組立てになったというようなところでございます。

(委員)

地域生活支援拠点、この拠点機能をここに設けたらいいんじゃないかと、私は考えておりました。拠点となるべき建物は、高島平にある障がい者福祉センターということで計画は立てられているんですね。でも、高島平は、アクセスがしにくいところなので、果たして拠点の機能を十分発揮できるのかという危惧を持っています。こういう地の利のいい場所にこそ、拠点機能を設けたらいいのではないかと私は考えています。

(事務局)

区も同じような考え方を持ってございまして、そういった拠点機能を持たせるということから、グループホーム、短期入所、こういったものを設置したというところでございます。グループホームにおきましては、生活体験の場という機能の役割を担うといったところ、これも入れているところでございます。また、短期入所につきましては緊急時の受入れ、こういったものも機能として入れるところでございますので、地域生活支援拠点の機能を担う事業所として、今後位置付けていく予定となっております。

(会長)

そのほか、ご意見はいかがでしょうか。地域生活拠点のほうに関しましては、後ほどご報告があると思います。それでは、次に、4の協議事項に入ります。

4 協議事項

(1) 板橋区障がい福祉計画等の素案について

(事務局より資料3について説明)

(会長)

今、ご説明があった内容を含め、委員の皆様のほうから何かご質問、あるいは委員間で確認事項などがある場合、それも含めてご意見等を頂戴できればと思います。いかがでしょうか。

(委員)

今、課長のほうから最後に、「障がいのある人が」と計画の文言を変えた

といった話がありました。ある当事者の方からそのようなお話があったと、やはり大事なことは、そこだと思うんですよね。当事者の方がどういうふうに思われているかということが一番優先して、それをどれだけかなえられるかということで、そこを頑張るのが区じゃないかと思います。

(会長)

そのほか、いかがでしょうか。

(委員)

この障がい福祉計画については、事前に文書で意見を求めているところであって、反映された意見もある一方で、反映されていない意見もあるようですが、どうして反映できなかったのかという区側の対応の状況を説明していただきたいと思います。

(会長)

自立支援協議会だけの意見というわけではなくて、ほかの策定委員会とか、庁内や区内のいろんな所々の関係から、いろいろ総合的にという形になったと思います。この意見が全て反映できるという仕組みではないかと思いますが、うまく反映できなかったところを何かの機会に委員にご報告のようなことをしていただきたいというご意見かと思います。ほかの委員の皆さんはいかがでしょう。

(委員)

賛成です。パブリックコメントを出したときに、一人ひとりのコメントに対して、なぜそれが反映できたか、できなかったというのを一覧表にして、意見、それで隣に理由みたいなものが書かれますよね。すごく分かりやすいです。なぜできなかったのかなって、表にして書いていただけると分かりやすいのかなと。そうすれば、こちら側も、こういうふうをお願いしたらかなえやすいのかなとか、こうやったら区のほうがやりやすいのかなって、やっぱり考えるきっかけにもなると思います。

(会長)

それでは、そのような形で一覧表、やり方はいろいろご検討していただき、委員総意のお願いという形でご準備いただければと思います。そのほか、ご意見、ご質問等がありましたらお願いいたします。

(委員)

今、説明がありました 25 ページの重点項目の 1 の後半、発達障がいの人
が生きやすい社会をめざしての一番最後のところに、「そのため、中核と
なる発達障がい者支援センターと子ども発達支援センターの機能強化を図
るとともに、健康福祉センターをはじめとする」という、ここの項目が入
ったということは一番のポイントで、これはとても重要だと思います。こ
の連携、精神保健福祉の窓口である健康福祉センターとの連携が明文化さ
れるということは本当に重要と思いますので、ぜひともご協力をよろしく
お願いいたします。

(会長)

ぜひ言葉だけではなくて、実際に具現化もしていただくというところで進
めていただければと思います。ほかはいかがでしょうか。

(委員)

障がい者の差別の解消ということに関して、大人になってからそういう理
解を深めるということと同時に、教育がその役割を果たすということはと
てもいいかなと思います。実際に今、差別解消というか、障がい理解と、
それから障がいのある子と障害のない子が共に学ぶ機会が、復籍制度とい
う形で行われていますので、そこもぜひここに入れていただいて、区民の
方々に広く知っていただくということは大事なかなと思います。

(会長)

実際に行われている内容ですので、やはり適切な場所に、その復籍のこと
とかも含めていただけるといいのではないかなというふうな気がします。
ほかはいかがでしょうか。

(委員)

まず、38 ページの地域生活支援拠点等の整備、2 番目の緊急時の受入れ
体制の整備・充実の右側の事業概要の中に、板橋キャンパスとか、民間の
短期入所との連携、協力体制の確保というのが書かれていますが、ここに
赤塚ホームのことは書かれないのでしょうか。

(事務局)

区の方針性といましては、現在、赤塚にございます赤塚ホームといっ

	<p>たところの緊急枠もあるところでございますが、在り方の検討が必要というような認識は持ってございまして、そこも含めて、整備・充実という思いは持っているところでございます。</p> <p>(委員)</p> <p>赤塚ホームが、今は区の単独事業の緊急一時保護という状況で8床あると思いますが、それが今後もしかしたら短期入所になるのかなど、何か形が変わっていくと思ったんですけれども。</p> <p>(事務局)</p> <p>現時点で、今お話しいただいた、例えば短期入所等にするとかそういったところ、例としてはあるのかなというふうに思っておりまして、ただ、それに関する課題等も含めて、様々な手法が今のところ想定されるところでございますので、現行の法人とも協議しながら、どういう方向を出していけるのか検討を進めているところではございますが、現時点でお示しできるには至っていないといったところでございます。</p> <p>(委員)</p> <p>それはそれとして、緊急時の受入れ体制の整備・充実というところで、板橋キャンパスって令和5年3月にできるんですよね。この計画って令和3年から5年の計画だと思いますが、5年3月にできるものをここに、載せるのは問題ないけど、やっぱり緊急時なので、緊急に受け入れてほしいというところで、赤塚ホームは書いておいていただきたいなとは思っています。</p> <p>24時間、365日、緊急で何かあったら受け入れるということを。板橋キャンパスか民間の短期入所施設との連携って書いてありますけれども、この民間の短期入所施設との連携もすぐにできるようなところって、今あるのかなってすごく不思議には思います。これも令和3年から5年の間に連携ができなければ、結局は板橋キャンパスを待つだけみたいになると思います。だから、赤塚ホームが何で入らないのかなというのがすごく不思議です。</p> <p>(事務局)</p> <p>この後、地域生活支援拠点というようなご協議をいただく中でも、赤塚ホーム、緊急時の受入れという中ではお示しさせていただいているところで</p>
--	---

ございますので、記載の方法については検討させていただければと思って
ございます。

(委員)

40ページの文化芸術・余暇活動の充実というところなのですが、前回の
相談支援部会のご報告のときに、相談支援の部会の下に連絡会みた
いなのがありますよね、そこが報告してくださった中で、余暇を過ごす場
所がなかなかないということが書かれていて、私も知的障がい者相談員を
やっていて、何か余暇の場所がありますかという相談は結構多いです。軽
度の方向けの余暇はありましたが、重度の方のものが一切ないんです。そ
この部分は少し載せていただきたいなと思います。それと、56ページの
②の共同生活援助（グループホーム）なんですけれども、先ほどもお伝え
しましたが、やっぱり近隣区では、重度の人のグループホームが2か所
目、3か所目ってだんだん増えてきて、板橋は知的障がいの行動障がいの
人が入れるグループホームはまだ1か所もできていないという状況です。
なので、知的障がいの重度の人のグループホームをぜひつくってほしいと
いうのは、議会でも多く上がっていたと思います。重度の知的障がいのあ
る人って、最重度と重度、愛の手帳1、2度の人全部合わせると1,000
人ぐらいいますね。高齢化に伴い入所できればいいんですけども、入所
できない場合は、本当にさっき言ったように短期入所と入院を繰り返して
いる状況、もしくは在宅で支援してもらっている人もいるんですけども、
きょうだいがいる場合なんかがあって、本当に見つからないんです。しか
も、今後は地方の入所施設に入るのではなく、地域で暮らしていけるよう
にしてほしいなと思うんです。この地域で暮らせるような計画をぜ
ひ、1つずつでもつくってほしいけど載っていなかったのがものす
ごく残念でした、やっぱり難しいのでしょうか。

(事務局)

現状といたしましては、区のほうで整備するといったところは、少なくと
もこの計画期間が3年といったところ、それで、先ほどもご説明した財政
状況等を踏まえると、整備していくというのは非常に困難と言わざるを
得ない状況でございます。一方で、そういった状況につきましては区とし

でも捉えているところがございますので、板橋キャンパスといったところでは、1つ、都用地活用ができたといったところがございます。記載としてはそこまで踏み込まれていないですけれども、民間事業所の参入を促進することは、変わらず検討し、また用地等の活用も含めて、ニーズへの対応を図っていきたいと考えているところがございます。ご指摘のことについては、区としても受け止めるところがございますが、入所施設の部分で重度の方は、ハードを整備するだけではなくて、既存の資源の中で、入所施設のほうから地域移行できる方を増やしていくことで受入先を確保すると、そういったやり方もあるのかなというところも含めて考えているところもございます。調整中とさせていただいてございますが、重度の方の受入先の確保といったところにつきましては、区としても取り組んでまいりたいと考えているところがございます。

(委員)

高齢者の入所施設の中に障がい者の枠を設けていただくなり、高齢の障がい者を高齢者の入所施設に入れるような仕組みをつくってくれるなど、そういう感じなんですか。

(事務局)

具体的に、その取組といったところに限ることではございませんが、そういう様々な可能性を含めて、どういったものができるのかといったところは検討を進めていく必要があろうと思ってございます。

(会長)

なかなか文言の中に直接委員のご意向とかを盛り込むのは難しい部分もあるかと思うんですけれども、やはり関係者の意見として、ぜひその辺は進めていただければと思います。あと、文化芸術・余暇活動の充実のところで、重度の障がいのある方たちの余暇の活動ということで、障がい者の入所の施設がイベント的に、重度の方たちも取り入れて、そういう長期的なものをやっていこうという、多分、他区でもされているとは思いますが、定期的にとというのは難しくても単発のイベント的なものが、が広がっていったりすると、いろいろ広がっていくかなというふうに思います。ぜひそういう情報を集約して、例えば特別支援学校で卒業生の会みた

いなのがあったりするところもありますよね。そういう部分も含めて、何か重度の子どもたちが集える場やスポーツができる場みたいな、余暇活動の場をもっと持ってもらって、やれるようになればいいのかなと思っています。文言の中に入れ込むというのは難しい部分もあるかもしれないんですけども、その重度の子どもたちの部分で、余暇活動というところを改めて内容とかも含めてご検討いただければと思います。ほか、どうぞ。

(委員)

余暇活動支援の話が出ましたので共有しておこうと思っているんですけども、板橋区には障がい児余暇支援活動というとても使い勝手のよい仕組みがあるんですが、18歳以上になると、突然何も余暇もなく、この広場あすなろの青年学級ですね、そういうところも定員がすごく狭くて、どこにも行くところがないところがあります。それで、我々の会は18歳以上の人が集まるんですけども、我々の会の中でもですね、18歳以上の人で、そこに子どもが含まれていないと、こちらの申請できないんです。一応そういう課題があるということを共有しておきたいと思います。

(会長)

ほかはいかがでしょうか。

(委員)

43ページの情報通信機器等の活用の促進というところが、令和5年まで調整中のままというのは、時流に何となく遅れるなという感じがしているということが1点あります。

(事務局)

調整中というのは、このままいくわけではなくて、記載の内容を含めてどういうことができるか、関係所管課を含めて、調整をさせていただいているといったような状況でございます。

(委員)

ぜひこれを待ちたいと思います。それともう一点、36ページの民間企業における障がい者雇用の促進のところですが、その期間に障がい者の雇用率も上がる可能性もありますし、もう45.5人以上の企業では雇わなくてはいけないというふうになっていますから、中小企業の啓蒙ですとか、

あとは国としても企業に対する支援というのがありますが、多分企業のほうは知らないというのがあるので、その辺のことを、文言に入れるのは難しいかもしれないですけども、よろしくお願ひしたいと思います。

(事務局)

こちらは就労支援部会でもテーマになったところでございまして、やはり商工会議所の会長に入っただいてるんですけども、そうした方のご意見として、受入れ側の企業のニーズといったものもきちんと捉えた上でマッチングしていかないとうまく進まないという中、今のところは企業側のニーズのつり合いが行われていないということが課題だと思いますというお話がございました。これに関しては、区としても同じような課題認識を持っているところでございまして、企業側のニーズの抽出については協力するというようなお言葉もいただきましたので、今後そういったことを進めて、障がいのある方とのマッチング、また障がい者に関する理解、そういったことも含めて進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

(委員)

障がい者を雇用する板橋区内の各社とも、コロナ禍の影響で大変厳しい前半期の業績を迎えているんですね。それと、2.3%の雇用に向けて、かなり雇用拡大をし、また賃金も上げていきたいというふうに考えておるんですが、ぜひそのためにも、36ページに記載の優先調達活動の推進ということについて、ぜひご協力いただきたいと思います。

(事務局)

区といたしましても、優先調達といったところは毎年方針を定めてございます。その目標額といったところを定めているところでございますが、より多くの企業さんに活用いただけるような仕組みを含めて、検討させていただきたいというふうに考えてございます。

(委員)

十分計画の内容を読み込めていないので申し訳ないんですけども、今回の計画の中に、現時点でコロナウイルス感染症に起因する課題についての記載というのはあるんでしょうか。

(事務局)

現状は記載していないところでございますが、これについては記載する必要があると思ってございます。今、区全体的な動きといたしまして、区の基本計画に基づきます実施計画の改定作業を行っているところでございます。こちらで区全体としてのコロナに関する考え方を含めた方向などの動向を踏まえて、原案の段階では、そういった記載について追加してまいりたいというふうに考えているところでございます。

(委員)

その上で、現時点で私が危惧していることがありまして、それは7ページに、精神障がい者の推移と傾向というグラフが載っているんですけども、現時点でかなり増加傾向にある中、このコロナウイルスの状況下で、ますますこの増加傾向が悪化してしまうのではないかなということを懸念しています。いろいろ報道を見ていると、家庭内で何かDVが起こったりであるとか、コロナでいろいろ困窮して自殺をしてしまう人がいたりだとか、そういう問題をこのところいろいろ耳にすることも多いので、もしかしたら来年あたり、この精神障がいと言われるような状態の方が増えてしまうのではないかなということを心配しています。そうだとしたら、なおのこと、この精神障がい者に対応する支援も、それを想定して今のうちに拡充を決めておいたほうがいいかなと思っているんです。精神障がいの特化した支援というのは、32ページの下の3-4あたりに書いてあることが、特に精神に特化した支援の内容だと思われるんですけども、果たしてこの内容で、もしコロナに起因して増加したら対応し切れるのかなと心配になっています。このあたりはもう少し拡充したほうがいいのか、何か考えはありますでしょうか。

(事務局)

現時点で、どういった変化が起こっているかといったところですけども、まだそこまでといったところは区としてもつかみ切れていないところがございますが、今後、確かにそういった状況が多くなってくる可能性もあるというところはございます。ただ、状況を鑑みませんと、どういった事業が必要なのかといったところはなかなか判断が難しいところでござ

いますので、区といたしましては、ここに載っている事業しかやりませんというお話ではございませんので、状況に応じて、所管課とも相談しながら、そういった対応を図っていく必要があろうかなと思っているところでございます。

(委員)

それを踏まえて、私がやったほうがいい支援というのが、日中の活動の場というのを設けてもらいたいなと思っています。現状を見ると、精神障がいを負っている方って、ほぼ家庭内でずっと生活しているという方が多数いらっしゃるようです。いわゆるひきこもりというような状態、こういう状態に陥ってしまっている精神障がい者が相当数いる、むしろ、もう大多数がそういう生活を送っていると思われまます。そういう方に対して、家にいるだけではなく、一応、社会の中に出るという形で活動するという場を設けないと、精神障がいの方は社会に出られないんですね。ぜひともこういう精神障がいの方が安心して何かしら活動ができる、利用できるような、そういうサービス・場を設けていただきたいなと思っています。

(事務局)

そちらにつきましては、精神障がいといったところで、発達障がいをお持ちの方などもいらっしゃるのかなというふうに思っているところでございまして、11月に発達障がい者支援センターも開設されるというところもございまして、そちらの内容等も含めて、周知啓発の下に、使いやすいサービスとなるように考えてまいりたいと思うところでございます。それ以外といった部分に関しましても、こういったものがあるのか、今の支援といったもので知られていないといったところもあるかと思っておりますので、またお知らせするとともに、こういったことができるのか、検討させていただきたいと考えてございます。

(会長)

地域活動支援センターを充実させていくなんていうのも1つの手だというふうに考えますけれども、ほかはないでしょうか。そうしましたら、事務局におかれましては、ここで出された委員の皆様からの意見等を参考にさせていただきまして、次回の協議会において原案のほうをご報告いただけれ

ばと思います。委員の皆様におかれましては、この後、事務局より追加意見シートを送付していただく予定でございます。限られた時間ですので、十分読み込めなかったり、十分意見が出せなかったという方もいらっしゃると思いますので、もし追加の意見等がございましたら、事務局のほうまでお知らせいただければと思います。それでは、本日の最後の議題になりますけれども、地域生活支援拠点等の整備について、こちら事務局のほうからご説明をお願いいたします。

4 協議事項

(2) 地域生活支援拠点等の整備について

(事務局から、資料4について説明)

(会長)

資料4の1のところの協議に当たってというところにも書いてありますように、別紙の地域生活支援拠点における各機能の状況について、特に課題と、一番下書いてある取組の方向性、この5つの内容に関しまして、委員の皆様から、具体的なご提案も含めて、ご質問、ご意見等があるようでしたらお願いできればと思います。

(委員)

障がい児部会のところでも話題になりましたが、区内で転居したときに、いろいろ情報共有しにくいという話題があったと思います。今回、面的というところで、いろんな機能がある程度分散しなければいけないことというのはあると思いますが、相談機能の在り方として、これら幾つかの拠点で全てが、サービスが一括してどこかで相談できるような状況の、双方向の連携という流れになる予定なのか、それとも、それぞれが独立するような形で面的に整備されているというふうに考えた方がいいのか、そのところだけ教えていただければと思います。

(事務局)

1つ、軸となる障がい者福祉センターは、各事業所と連携できるような双方向をつくってまいりたいというふうに思っております。なので、何かそういった形の中で中心となるところに集約するような形で、様々な場面で対応できればなというふうには思っているところでございます。

(委員)

ある程度、行きやすいところでサービスがワンストップでできるといいなというふうに思いました。

(会長)

ほかはいかがでしょうか。ご質問でも、ご意見でも構いません。

(委員)

地域生活支援拠点について、相談支援部会のほうでも、何年かにわたってモデルとなるような地域を巡ったり、検討してきたんですけども、今の別紙2に、これからのめざすべき姿ということで、これから直近というところの面的整備の図が描かれているところで、気づいたところとしては、今のところ、体験の機会の場合なども板橋キャンパスや共同生活援助という形で書かれているんですが、先ほどの説明にもあったように、厚労省などのモデルのイメージなどですと、既存の日中活動サービス、例えば自立訓練ですとか、今あるものをもう少し活用するような形にしていけると、この図だけだと、居住するところと、住んでいる場所と障がい者福祉センターでのやり取りという感じになってしまっていますが、もっと使える場所はたくさんあると思います。それが何か目に見えるような形で提示できると、区内でもかなり面的整備が、実際に今できそうだなというのを私も感じています。モデル案も、日常の場所と緊急時と相談と、うまく区内全体がエコマップのような形でできていくと、より板橋の強みも出てくるかと感じました。

(会長)

ほかはいかがでしょうか。

(委員)

次年度から、地域生活支援拠点を動かしていくということで、計画には載っている形で実行されていくことになると思いますが、とにかく区内のいろんな拠点というのは面的整備の内容なので、どこか1か所でやる、うちが全部やるという、こういう話ではない。各自治体においても、比較的、面的整備が中心というふうなことなんですけど、板橋区においてサービス事業所も増えてきて、充実されてきていると思うんですけども、全体を

やっぱり統合してという部分であるとか、緊急時の対応とか、そういったところでは本当にいろいろと調整が必要だというふうに思っています。取り分けコーディネーターというか、いろいろ区内の状況に精通していないと、そういう役割というのは簡単ではないなというふうには感じています。もちろん我々のほうで、基幹相談支援センターでございますので、全体でもってこれを動かしていく形になるかなというふうにはイメージしています。話がずれてしまいましたが、虐待防止センターですね、これは我々のほうで電話を受けているんですが、受けることは受けるんですけども、全て区のほうにお返ししていく。実は、その後どうなったのというのが、我々のほうには全く伝わってこないんですね。これは要するに個人情報の部分であるとか、そういうことがあるんですね。実働としてはやはり区がそこら辺は責任を持って虐待の部分をコントロールしていかなくちゃいけない。ですから、この緊急時のというところでは、当然これは、それぞれの事業所等において、誰が担当するかという形でもって、これを動かしていかななくちゃいけないんですが、虐待の部分は、きちんと区側で持っておかないと、難しい部分があるかなと感じています。我々も指定管理という形を受けている一法人で、一般の民間の法人という形なので、ほかの民間の法人さんの内容は当然入ってくるわけですね。客観的にこれをどういうふうに見ていくかというところにおいて、やはり行政のほうで受入れをコントロールしていくというところを整理はしておいたほうがいいのではないかなというのを感じています。拠点のほうにまた戻りますけれども、これからいろいろな部分を整理していくに当たって、先ほどの赤塚ホームの話も出ていましたけれども、幾つか取り組まないといけない部分があると思っています。意見にも書かせていただいたんですが、できるならば、そういう生活支援拠点の協議体ですね、そういったものをつくっておいで、それで全体で内容を調整していくという部分が、今後必要になっていくかなというふうに感じております。

(事務局)

虐待対応の部分につきましては、これからも区が担っていくというところには変わりがないというところでございます。ただ、相談時間、受付の時

間等、そういうところを充実させていくとか、そういったことは可能というふうに思っていますし、よりそういった相談等に乗れるような体制といった部分では、地域生活支援拠点の一部に含まれてくるかなと。地域生活支援拠点に関する協議体というご意見も頂戴しており、ほかにもご意見いただいているので、今後の運用に関しましては、そういったものも視野に、検討をさせていただきたいと考えているところでございます。

(委員)

区内福祉関連事業所一覧の中の日中活動系サービスの自立訓練のところの1行目の記述、この施設はないと思うんですが。

(事務局)

この自立訓練といったもののサービスがどういったものかというものがなかなかお分かりにならない方もいるので、板橋区内にあるものだけでなく、ご説明の文章という形で、載せさせていただいているところでございます。

(会長)

自立訓練そのものは、福祉型のものと医療型のものがあると思うので、全て適用していただけるということはないかと思います。その辺の表記も含めてご検討いただければと思います。ほか、いかがでしょうか。

(委員)

この地域生活支援拠点についても、時間が足りないということで事前に文書で意見を求めて、それで実際に提出された意見が、この後ろの参考資料としてついているものなんですけれども、この参考資料を見たところ、私が言った意見の中で、取り上げてもらえていない意見があるようなんですけれども、これは何か意図があつてのことなんでしょうか。

(事務局)

手元に原文がないこともございますので、こちらにつきましては後ほど個別にお答えをさせていただいてもよろしいでしょうか。原文のほうを確認させていただければと思います。

(委員)

地域生活支援拠点のイメージ図、横向きの図なんですけれども、ちょっと

分かりづらい、当事者という姿が書かれていないのが原因ではないかなと思ったんです。今現在、この図の中心になるところに板橋区となっているんですけども、私が思うに、この中心に障がい当事者というものを置けば、自然と当事者に対して地域生活する上で必要な機能という形の図をつくることができると思うんです。面的整備は、拠点1つで機能は収まらないので、そこ以外のいろんな機能が当事者の周りに幾つか点在するというふうになると思うんですね。そういう図のほうが、ちょっとイメージがしやすいのではないかなと思いました。

(事務局)

図については、ぜひとも皆様、ご意見を頂戴したいところでございますけれども、なかなかいい絵が描けずに苦労したところでございますので、ご意見を踏まえて調整を図らせていただきたいと存じます。

(会長)

確かに当事者の方が、ここに入るという考えもあるかと思います。どういう図がいいのかちょっと分からないですけども、また委員の皆様からのご意見をいただければと思います。今日、皆様から出た意見等を集約をしていただいて、事務局のほうには次回の自立支援協議会で地域生活支援拠点としての機能を体系的にお示しをいただきまして、この会議で確認の上、障がい者福祉センターを地域生活支援拠点に位置付けていきたいというふうに思っております。委員の皆様におかれましては、先ほどの前の議題と同様に追加意見等がありましたら、事務局まで、ぜひ遠慮なく忌憚のないご意見をお寄せいただければと思います。以上で、令和2年度の第2回の協議会に予定されていた議題を全て終了いたしました。それでは、事務局のほうに進行をお返しいたします。

(事務局)

本日は長時間にわたりましてご協議を賜り、誠にありがとうございました。最後に、副会長から閉会のご挨拶をお願いできればと思います。

5 閉会

(1) 副会長挨拶

(副会長)

	<p>本日は、第2回の地域自立支援協議会、活発なご議論を前回同様いただきましてありがとうございます。協議事項として、障がい福祉計画等の素案、地域生活支援拠点等の整備について取り上げられまして、改めて板橋区としてたくさんの事業に取り組み、また今後もたくさんのことを予定していると、困難な中、予定をしているということが明確になったのかなというふうに思います。現在、自助、共助、公助と、まず自分でできることをやって、自己責任というふうなことも言われておりますけれども、大切なのは、SDGsが提唱している、誰一人として取り残さない、こういう温かさが地域にあふれていることではないかなというふうに思います。特に、この新型コロナという状況の中で、こういう温かさをどう板橋区に醸成していくのかということが、行政として、区民全体としても大切なことではないかなというふうに思いますし、公助としての支えが前提としてしっかりつくられ、機能しているということがないと、自助、共助ということも機能しないんじゃないかなというふうに思っています。この自立支援協議会、今日、議論のありました地域生活支援拠点を整備していくことや、次期の計画をつくれるということは、そういう立場からのことだというふうに思います。ぜひ区民の目線、当事者の目線でしっかりとした計画がつけられていくということを今後もこの協議会でしっかりとやっていきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>(事務局)</p> <p>最後に1点、事務局からご報告です。今週の月曜日に東京都の自立支援協議会交流会というところに、私を含め一部の委員の方に参加をしていただいております。そちらの報告についても、次回の自立支援協議会で情報共有という形で行ってきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、本日の協議会はこれで終了とさせていただきます。なお、次回につきましては令和3年1月21日の14時からを予定しております。本日は誠にありがとうございました。</p>
所管課	<p>福祉部障がい政策課自立支援係</p> <p>(電話：3579-2089)</p>